

# ほ ど 教育センター通信

## 火床の火の心を紡ぐ

第7号（通算90号）  
令和3年11月30日  
三条市小中一貫教育推進課  
教育センター 発行

### 三条おおじま学園



11月11日(木) ICT教育研修会における事例発表

### 心に一步近づく

小中一貫教育推進課 指導主事 新保 英穂

あまり関わりのない方からでも、服装が似合っているとか、外見を褒められたらうれしいですね。関わりのある方から自分の行動やその結果を褒められると、もっとうれしく感じます。さらに自分が努力していることを認められた時には、最もうれしく感じると思います。

県立教育センターの資料で読んだ、褒めことばの「さしすせそ」が心に残っています。それは、「さしすせそ」で始まる言葉には、褒めことばがいっぱいあるというものです。「さすが」「しっかりしてるね」「すばらしい」「世界一」「その通りだね」など、たくさん思いつきます。

不思議なことに、この「さしすせそ」を考えているとき、その言葉が当てはまる状況が思い描かれて、考えている自分自身もポジティブな気持ちになります。

早稲田大学の菅野 純先生が「心のピラミッド」の中で、分厚く広い「①人間の良さ体験」とその上に位置する「②心のエネルギー」の量が、「③社会的能力（自己表現力や状況判断力、自己コントロール力、問題解決力）」などの習得に必要であるとおっしゃっています。

「①人間の良さ体験」は、「母さんっていいな」、「父さんっていいな」、「友達っていいな」、「先生っていいな」などと、関わる人から本人が人の良さを感じる体験です。言葉だけでなく、雰囲気や態度なども重要な体験となるそうです。「②心のエネルギー」は、「安心」、「楽しい」、「認められること」によって育つそうです。菅野先生は、「③社会的能力」の育ちを願うとき、対象者の①と②の状態を把握して不足が予見されるなら、まずは①②の育成からとおっしゃっていました。

「心に一步近づく」ために、心に留めておきたいものです。

四つ葉学園

「オーダーメイド研修 10月26日」  
(体育：保内小)



10月26日(火)に、保内小学校で学園のオーダーメイド研修(体育)が行われました。

5年生「マット運動」の単元で、子どもたちが側方倒立回転の課題を解決するために、グループでの対話やタブレット PC 端末を活用することで自らの課題が分かり、運動を工夫しながら課題解決することを目指しました。

授業では、前時で出た課題を振り返り、それを解決するためにどのような方法があるかを考えました。学習問題◎として、「◎腰が高い位置で回り、膝が曲がらないようにするには、どのようなことを意識すればよいか？」を設定し、3・4人のグループで練習しました。

また、自分の動きを把握するために、モーションショットによる9コマのコマ送り画像を活用したり、多様な課題を抱えた仲間を混在させたグループ編成により対話を促す工夫をしたりするなど、効果的に課題解決ができるようにするための授業者の工夫が見られました。

授業後の協議会では、「児童の主体性を引き出すための方策は適切だったか」「対話的活動を促進し、ともに高め合う児童の姿を引き出すための方策は適切だったか」を協議題として、三条市授業スタンダードの活用やグループでの活動、タブレット PC 端末の有効性について議論しました。

参会者からは技の系統性を意識したウォーミングアップの有効性や、45分間の授業の中で「話し合う時間」と「体を動かす時間」を適切に確保しようとしていたなど、本実践を評価する声が多く挙げられました。

瑞穂学園

「みずほスクール集会(11月1日)」

感染症対策として、全員が同じ会場に集まることはせずに、本成寺中学校の各教室に分かれてグループ協議を行いました。緊張感をほぐすために、最初にグループでの自己紹介やアイスブレイキング(ミニゲーム)を行いました。

その後、3つの内容について、小6と中1、中2と中3に分かれて真剣に話し合いました。最後にグループで話し合った内容について、グーグルミート等のICT機器を活用しながら共有しました。グループ内で様々な考えが出され、充実した話し合いとなりました。

話し合った内容

- 1 いじめやいじめにつながる行為
- 2 いじめを生まないためにできること
- 3 いじめゼロ宣言

部活動体験も行われ、小学生にとっては中学校生活への見通し、中学生にとっては春に1年生を迎える心構えをもつことにもつながりました。



【アイスブレイキング】



【グループでの話し合い】

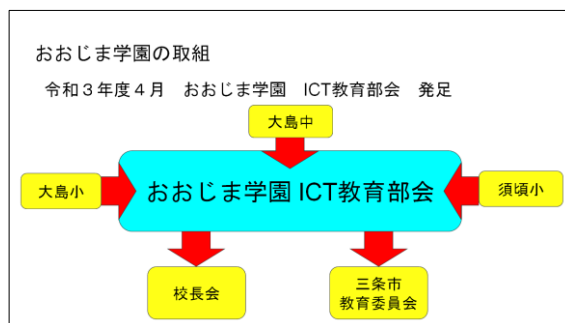


【話し合いの内容の共有】

## 三条おおじま学園

## ICT 教育の取組

11月11日(木)に市教委主催で行ったICT教育研修会で、三条おおじま学園がこれまでのICT教育の取組について発表しました。三条おおじま学園では、「ICT教育部会」を中心に組織的に取り組んでいます。本年度は、各学校の実践をGoogle Formsで報告し、それをスプレッドシートで集約整理して、実践を共有し、次年度のカリキュラムに生かそうとしています。



多くの実践の中から、いくつかが具体的に紹介されました。教科は、国語、図画工作、外国語・英語と話題が豊富でした。いずれの学校もジャムボード(電子ホワイトボード)を活用することにより、子どもが進んで考えを表現するようになったそうです。他にも、子どもが授業を振り返り、学びを蓄積することにスプレッドシートを活用している事例や、係の子どもが端末で授業板書を撮影し、ドライブのフォルダに写真を保存して、欠席していた子どもの復習を支援している事例など、参考になる話題が提供されました。

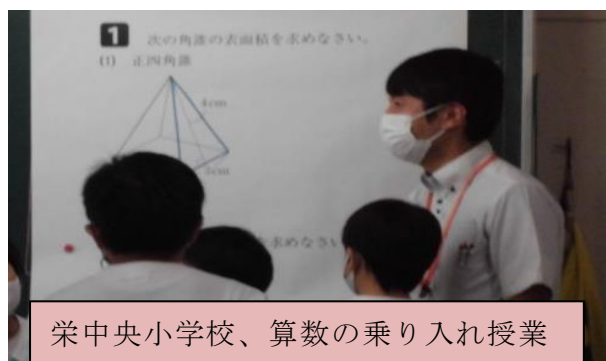
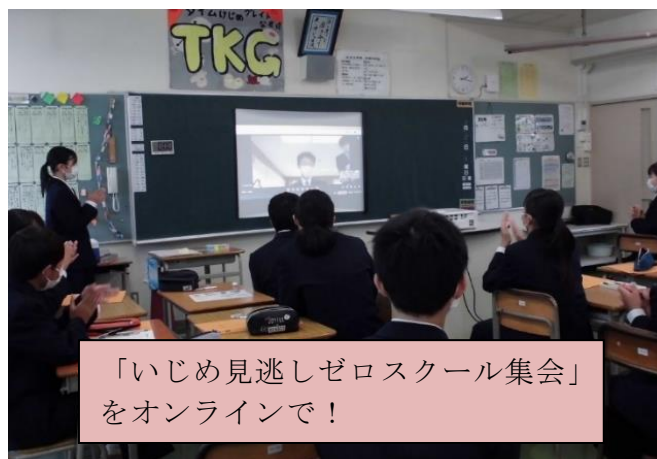
## さかえ学園

## いじめ見逃しゼロスクール、乗り入れ授業

新型コロナウイルス感染症の影響で様々な交流活動に制限がかかっている中ですが、さかえ学園では活動を継続したり、交流方法を工夫したりして、小中一貫教育を推進しています。

「いじめ見逃しゼロスクール集会」は、オンラインで開催しました。画面越しの交流ですが、画面だからこそ効果的に伝わる表現もあると感じました。

オンラインによる児童生徒の交流を今後も学習活動で活かしていくことができそうです。



対面だからこそよい場面もありました。中学校の数学の乗り入れ授業です。授業後、小学生が中学校の先生を囲んで中学校の問題について話している場面です。終わった後の子どもたちの反応が伝わってくる嬉しい瞬間です。



## 防災教育授業研修会（三条嵐南学園）11月19日（金）

11月19日（金）三条嵐南学園を会場に、防災教育授業研修会を開催しました。今年度も保護者参観を行わず、各校から教職員のみでの参加となりましたが、全学年で新潟県防災教育プログラムを活用した授業公開を行い、昨年度からの変化を感じることができました。

### 1 防災教育授業

小学校は1～6年生の全てで洪水災害をテーマに学習しました。各学年の発達段階に応じて、「洪水が起きると身の回りにどんなことが起きるのか」、「洪水がおきた時に自分の命を守るためにどう行動するか」などの学習を行い、危険から身を守るための対策を考えました。

中学校は、1年生が洪水災害、2年生が地震災害、3年生が津波災害をテーマに学習しました。

1年生は避難所での中学生の役割について考えました。2年生は地震の発生状況の違いに応じた具体的な身の守り方を考えました。3年生は地震後に発生する津波から自他の命を守るために何ができるのかを考えました。

小学校や中学校で、学習内容に応じて、タブレットPC端末を活用した授業が見られ、子ども達が学びやすくなるように、効果的な活用方法を授業者が工夫する姿が見られました。また、どの授業においても、知識としての防災教育だけでなく、「どう身を守るか」、「どう行動するか」を考え、「自らの命を守る行動」ができるように取り組んでいました。



嵐南小学校



第一中学校

### 2 防災教育講演会

授業公開後、教職員を対象に、三条市防災対策総合アドバイザーを務める、東京大学大学院情報学環特任教授の片田敏孝様から「これからの時代に求められる学校防災教育」という演題で御講演をいただきました。

講演では、近年の気象変化による豪雨多発や台風の凶暴化の実態を踏まえ、「自らの判断で避難行動をとることの重要性」についてお話がありました。また、「住民は自分の命を自分で守るという意識をもち、自らの判断で行動をとり、行政はそれを全力で支援する」という行政サービスから行政サポートへの転換が必要なこと、「家族や地域における命のつながり、思い合う心」が防災の実効性の鍵であるというお話がありました。

講演の最後に、「避難しない大人の姿勢が子どもを避難させなくしてしまう」といった育みの環境の重要性や、「他者との関わり」の中で考える命の教育を通して、内発的な避難意識の醸成が必要であるというお話をいただきました。「対策」よりも「姿勢」が重要であること、「対策」ではなく、「思想」を創ることが重要であるというまとめをいただきました。

講演を通して、命を守る教育について考えるとともに、「子どもたちは10年経てば大人になり、さらに10年経てば親になる」という防災教育を通じた育みの環境を作り出すことの大切さについて考える時間にもなりました。

参会者にとって、防災意識の浸透した三条市、災害に強い三条市を目指す気持ちを新たにするとともに、研修会となりました。



学校防災教育の講演(片田敏孝特任教授)